滋賀医科大学　研究論文の紹介

Murakami Y, Okamura T, Nakamura K, Miura K, Ueshima H.

The clustering of cardiovascular disease risk factors and their impacts on annual medical expenditure in Japan: community-based cost analysis using Gamma regression models.

BMJ Open. 2013 Mar 15;3(3).　　PMID: 23503577

循環器疾患の危険因子の集積が日本の年間医療費に与える影響：ガンマ回帰モデルを用いた地域集団に基づいた費用分析

《目的》 循環器疾患の危険因子の集積は、増加する医療費に対し重大な脅威となる。循環器疾患の危険因子に起因する医療費の年齢別の割合および分布は、特に高齢者に集中している。従って、高齢化が進む先進国における公衆衛生政策の立案にあたって、これらの問題を無視することはできない。

《研究デザイン》 個人あたりの医療費および対応する健康診断項目を基にした費用分析

《実施場所／期間》 滋賀県／2000 年 4 月から 2006 年 3 月

《対象者》 40 歳以上の 33,213 名

《主な評価項目》 年間医療費の平均値

《方法》 循環器疾患の危険因子数が医療費の平均値に与える影響を分析するために、ガンマ回帰モデルを用いた。本研究において分析に用いた、循環器疾患の 4 つの危険因子は、以下の通り規定した。高血圧（収縮期血圧 140 mm Hg 以上あるいは拡張期血圧 90 mm Hg 以上）／高コレステロール血症（血清総コレステロール 240 mg/dl 以上）／高血糖（随時血糖 200 mg/dl 以上）／喫煙（現在喫煙）。これを基に、性別および年齢別の検討を、高齢者（65 歳以上）、非高齢者（40 歳から 64 歳）に対して行った。

《結果》 年間医療費の平均値は、循環器疾患の危険因子を持たない 50 歳では 110,000 円（男性 110,708 円、女性 107,109 円）であったのに対し、危険因子を 3～4 項目持つ 80 歳ではその 6～7 倍（男性 603,351 円、女性 765,673 円）に及んだ。超過寄与割合は、非高齢者（男性 15.4%、女性 11.1%）の方が高齢者（男性 0.1%、女性 5.2%）よりも高く、この割合は、循環器疾患の危険因子を 1 つか 2 つ持つ、高齢男性を除く人々によって大きく引き上げられていた。

《結論》 循環器疾患の危険因子に起因する医療費の年齢別の割合および分布は、高齢者に対するハイリスクアプローチおよび集団全体に対するポピュレーションアプローチの双方が日本の総医療費削減のために不可欠であることを示した。

村上義孝＠医療統計部門 (2013.6.13)

Copyright(C) 2013 Shiga University of Medical Science　All Rights Reserved.